

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。自分たちの担当の「ウサギ」ですが、雌雄別飼中なのに、なぜか子ウサギが、誕生してしまいました。不思議ですね。今回は3年生の範囲が中心になりますが、生物は仲間を増やすはたらき(=生殖)があります。そのなかで、ウサギの生殖能力を紹介します。



まずは今回のメンバーを紹介します。一番左が雌「カオリ」、その隣が娘の雌「アサミ」です。そして、右が雄の「ロン」です。2頭の雌は先月5、6日、ロンを父とする子ウサギを相次いで出産しました。左下が、「カオリ」の子どもたちです。な



んと全頭が全く違う模様です。「ミニウサギ」というのは種類として固定されたウサギではなく「ミックスウサギ」=「雑種」なのです。ですから、親から引き継がれる情報も様々です。

生物のからだの特徴などのことを「形質」といい、形質が親から子へと受け継がれることを「遺伝」といいます。ここで「アサミ」の子どもたちも紹介します。右は、アサミ似、下は、ロン似、と全然違う真っ白、下が、おばあちゃんのカオリ似です。これだけ違う色が現れるのも雑種のおもしろさですね。成長するにつれて大きさや毛の質なども違ってきていますのでますます楽しみです。



さて、出産後のカオリもアサミも雄のロンと別飼してきましたので、雌雄によって増える「有性生殖」はあり得ないはずですが、ところが7月10日、カオリが突然出産したのです。はっきりいってスタッフ一同、目が点になりました。ところが、これには理由があったのです。普通なら出産の兆候が見られたら「別飼」をはじめ、数日後に出産します。しかし、カオリはそれが見られなかったので出産した当日に別飼いをしました。飼育舎には雄のロンがいたのです。となると、出産後の数時間で新しい命が芽生えたこととなりますね。そしておおよそ1ヶ月、誕生です。でも普通は数頭生まれるはずですが、今回は1頭だけでした。繁殖って生物にとってかなりの重労働であることがわかりますね。1回に生まれる子どもの数を調べて見るのも自由研究ネタになりますよ。(ウサギ目ウサギ科)



動物園を利用しよう!

何をしたい(調べたい)のか、事前に下調べをしてから、訪問するとすばらしい発見ができますよ。学校からガイドツアーに申し込んでもらうのもよい方法です。2週間以上前に日時・メンバーを決めて申し込みましょう。

いよいよ夏休みです。動物園など社会教育施設は、自分の「学びたい」という気持ちが必要なんですよ。理科だけではなく英語の自由研究もできますよ。たとえば、動物の英名をしらべて整理するなど。面白いと思いませんか。では、また。